



【学校教育目標】
楽しく学び 心豊かで
たくましい児童の育成

東海村立石神小学校
学校だより No. 11
令和8年9月1日

夏休み明け 新たな気持ちでいざスタート！

45日間の長い夏休みを終え、新たな気持ちでスタートです。夏休みの課題に9月からの荷物、そしてたくさんの思い出を抱えた子供たちの元気な姿に活力をもらいました。「やればできる!」とやる気と自信をつけながら、よいスタートが切れるように、また長期休業明けの子供たちの生活習慣のリズムが早く取り戻せるように、教職員一同、子供たちを支援してまいります。

夏休み期間の二者面談では、ご多用の中、保護者の皆様は来校いただきありがとうございました。学校やご家庭でのお子様の様子を共有するよい機会となりました。これからも気になること、ご相談したいことがある場合には、いつでも遠慮なくお声掛けください。

また引き続き、厳しい残暑が予想されます。今後とも熱中症への予防対策を講じながらの教育活動を実践し、子供たちの安心安全を第一に考えながらよりよい成長を実現させていきたいと考えております。今学期もご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



夏休みも様々な体験活動がありました



東海村エンジョイサマースクール 2026

夏休み期間中、村内のそれぞれの会場で様々な体験活動の機会がありました。その中で今年度も東海ステーションギャラリーにて「とうかいきっずミュージアム 2026」の展示がありました。各小学校、各学年の作品が集めた展覧会で、個々の作品のよさを味わうことができたと思います。



また8月8日(土)石神コミセンにて、村民会議石神支部主催による「親子で木工教室」が開催されました。椅子を作る企画で、当日はたくさんの方々が参加し、親子で一生懸命作業してきあがったものを嬉しそうに持ち帰っていました。



平和大使広島派遣を通して、学んだことを伝えよう

東海村では平和教育の一環として、毎年小中学生総勢15名を平和大使に任命し、広島に派遣して平和記念式典に参列し、平和について考える機会を設けています。今年も8/4(火)～6(木)の3日間、石神小代表として6年生代表児童がみんなで協力して折った千羽鶴をもって参加してきました。広島では原爆ドームや資料館の見学、平和記念式典参列、全国こども平和サミットへの参加等、様々な体験を通じて平和大使として自分が感じ学んだことを、堂々と全校児童に伝えることができました。11/1(日)東海村文化祭では、東海文化センターで発表する予定です。



内宿一区夏祭り・リトルブルースターズ出演

8/23(日)石神コミセンで開催された「内宿一区夏祭り」では、かき氷やゴルフ等の楽しいイベントの他、今年度も後半のステージ発表でリトルブルースターズが出演しました。日々生懸命練習を重ねた成果として演奏しました。地域イベントに参加し、盛り上げ役として地域に発信、貢献できたことが嬉しいです。



《演奏曲》

- ◆It Don't Mean A Thing
- ◆Tequila「テキーラ」
- ◆YMCA
- ★アンコール「テキーラ」

夏休みの教職員研修会を通して

教職員も夏休み期間中に様々な研修を行っています。全国学力学習状況調査の結果分析を始め、救命処置やAED心肺蘇生法の研修、緊急時の不審者対応演習や火災時の救助袋の確認・演習等を行いました。特に救急救命の演習では、教職員の行動を録画したものを、職員間の対応や課題についてグループで協議し、全体でフィードバックしました。子供たちの命を守るために誰もが迅速に行動できるように常に意識をもっていきたいと思っています。



「平和」について ～相手の気持ちを想像し、認め、受け止める 平和への思いを行動へ～

令和8年度平和大使広島派遣に、平和大使小中学生代表15名と一緒に私も団長として同行させていただきました。東海駅を出発して約7時間、広島駅に到着し、市電に乗り換え、降りた駅の目の前に突然現れた「原爆ドーム」の姿に、初めての子供たちはもちろんこと、3度目の広島訪問となる私も圧倒されました。

原爆ドームは、人類史上初めて使用された核兵器の惨禍をそのまま伝える唯一の建物であり、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の大切さを、時代を超えて訴え続ける、人類共通の平和記念碑であると認められ、1996年世界文化遺産に登録されました。戦後、取り壊しの意見もあるなかで、市民や全国的な保存運動・署名活動によって守り抜かれ、後世へ引き継がれた歴史的経緯があります。

広島訪問では、平和大使となった児童生徒は、原爆ドームの他にも、平和記念資料館や大和ミュージアムの見学では写真や展示物から戦争の惨禍を学び、全国平和学習の集いや全国こども平和サミットでは被爆体験者の生の声を聴き、核兵器の恐ろしさや被爆による苦しみに触れ、集いに参加した他県の中・高生たちの平和に対する強い思いを共有することができました。そうした出会いが、平和大使の子供たちをより大きく成長させてくれました。

訪問最終日の8月6日、蝉の鳴く音が響く猛暑の中、平和記念公園には「平和記念式典」に参列するために、たくさんの参列者が集まり、世界121か国の人々が出席していました。式典での広島市長の平和宣言、内閣総理大臣や広島県知事の挨拶から「核兵器の廃絶」や「平和への祈り」のメッセージが伝えられました。その中でも、広島市内の小学6年生代表2名の「平和への誓い」にあった「相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。」という言葉が胸に残りました。平和は、日常生活の中にもある大切な心だと改めて感じました。多様な人々を尊重し相手を思いやる心、自分の考えをもち、行動にうつす勇気について、これからも子供たちと考えていきたいと思います。(石神小校長)

『平和への誓い』《平和記念式典・こども代表「平和への誓い」より全文掲載》

もしも「大切なもの」が一瞬で消えてしまったら、どんな気持ちになるのでしょうか。私たちが笑い合っているときにも、尊い命が失われている現状があります。今もどこかで、当たり前前の日常がうばわれています。

ぼろぼろになった制服。

黒く焦げたお弁当箱。

それは、当たり前前の毎日を生きていた証です。

昭和20年(1945年)8月6日、午前8時15分。

たった一発の原子爆弾が、人々の暮らしを、人生を地獄に変えました。

髪は焼けちぢれ、全身の火ぶくれが破れ、火傷した皮膚が垂れ下がった人々。

「痛いよ。苦しいよ。」

「助けて、お母さん。」

「死にたくない。」

「助けてあげられなくてごめん。」

死んでしまうつらさ、生き続ける苦しみは、想像することさえ恐ろしいことです。

私たちには、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、

当時の記憶を事実として受け止める使命があります。

目をそらさず、知ろうとすること。

悲しい現実でも向き合うこと。

そこには、「生きたかった人々」、「生き続けた人々」の思いがあります。

私たちには、広島のこどもとして、行動する責任があります。

相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。

平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。

一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。

平和とは、誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。

こどもである私たちも、その一員として平和への一步を踏み出します。

かけがえのない「大切なもの」を、確かな希望を、未来へ届けるために。

令和8年(2026年)8月6日

こども代表 広島市立高須小学校 6年 柿崎 由宇

広島市立高南小学校 6年 河野 和希

